医系学生通信

第４号
2010年11月1日

発行：静岡県民主医療機関連合会
〒 420-0068 静岡市葵区田町 5-90
TEL:054-253-7275
URL: http://www.shizumin.com/

みなさん、患者になれない病人がいると言う事をご存知でしょうか。

雇用情勢が悪化し、リストラに遭ったり、仕事が減って収入が減ったりと、病院・診療所にかかりたくてもお金の余裕がなくかかれない人がいます。

静岡民医連では、お金の心配をせずに、医療をうけやすくする為の取り組みを積極的に行っていますので、ご紹介したいと思います。

無料低額診療事業で安心してかかれる ～静岡田町診療所～

「田町診療所では最近、失業による生活苦の相談が増えています。」経済的な訴えがあった時にまず話を聞き対応している松原事務長は、大変な状況の中で生活している人が多い現状が分かったと言います。

無料低額診療事業を今年の４月に始めてから、相談件数は１３件。そのうち５名の方がこの制度を使った診療を受けています。（１０月時点）

無料低額診療とは、お金に困っている人達が不安なく病院に行けるようにと、国が定めた制度です。（社会福祉法第二条第三項第九号）

今だからこそ

静岡田町診療所（以下、田町診療所）では、路上生活者を支援する静岡パトロールの会の見回りを通じて医療相談を受けたり、受診時に「お金がないから…」と検査を控えたり、薬を「節約」（毎日飲む薬を１日おきにする）など、自分自身でなんとかしようとする患者さんの姿が以前からありました。

↑田町診療所での相談風景。
医療相談を受ける松原事務長

そんな中、「無料低額診療制度」の存在を知りました。「お金がない、保険証がないという理由で、病気になっても受診ができないといった格差社会。今だからこそ、利用しなくてはならない制度だと思った。田町診療所はお金がなくてもかかれる医療機関が欲しいと、地域の人達の出資でできた診療所。まだまだ敷居が高いと感じていた。」と話すのは田町診療所の建設（２９年前）から関わっていた服部センター長。

命を守りたい「医療従事者」の取り組み

医療にかかれない現状、無料低額診療という光

前出の松原事務長に、制度を利用した親子の事例をお聞きしました。

５月上旬、３５歳の母親は胃痛、９歳の子どもは３週間前からの右膝痛を訴え来院されました。母親は３年前まで他の医療機関に通院し薬をもらい飲んでいましたが、その後経済的事情により通院を中止し、市販薬を買って済ませていました。保険証は保険料を滞納していたため、国民健康保険の短期保険証となっていました。ご家族は、元旦那さんのお母さんと３人暮らし。２００７年までは大手の会社に勤めていましたが、退職し、スナックで働き、収入は月１０万円ほど。多額の借金も抱えているため、病院にかかれる余裕もなかったそうです。　無料低額診療を適応し、母親は血液、エコー、胃カメラなどの検査、子どもは右膝のレントゲン検査を行い診断治療ができました。

「今までも、困難を抱えている患者さんはいたが、無料低額診療を始めてからは、患者さんに対応する時に、『この患者さんは対象者になるのではないか？』と考えるようになった。アンテナが１本増えた感じです。」と岩田師長は話します。安心して診療が受けられる制度が１つ増えたことにより、職員側も積極的に治療をすすめることができます。

＊「国保法44条」とは
不幸にして失業や、倒産、災害などで昨年より収入が減少した人を対象にした、国民健康保険法の44条に基づいた、医療機関の外来での一部負担金を減免する制度。

＊「生活保護制度」とは
憲法第２５条の理念に基づき，生活に困窮する全ての国民に対し、その困窮の程度に応じて必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長することを目的とする制度です。

前出の松原事務長はこうも語っています。「無料低額診療制度は、最長6ケ月しか利用できません。その患者さんがその後にも通院しながら暮らしていけるように、生活保護制度*や国保法44条*などの利用などの準備も併せて行うなど見通しを立てなくてはなりません。

中には、無料低額診療に限らず、医療控除の制度のお薦めをしても『自分で何とかしたい』と制度に頼りたがらない方も多いため、利用しやすくなるような意識づくりも大切です。「この制度を知らない方も多いので、宣伝活動をして病気を抱えていても安心して暮らしていけるようにこれからも取り組んでいきたい」と抱負も述べていました。

自立して生きていける力支えに　～静岡・たまち薬局～

「薬局はとても敷居が低いところですよ。」薬剤師の中村さんが、患者さんがお薬を受け取りに来た時に、「検査をしてますか?」などの声かけから、「お金がない・・・」と自ら話をしてくれる患者さんがいると言います。

実践しながら学習

たまち薬局では、２０１０年2月から毎月１回講師を招いて、「相談事例学習会」をしています。薬剤師2名・事務2名が静岡にある民医連事業所の職員にもオープンにして医療費助成の学習を重ねています。そういう患者さんの声を拾って、「気になる患者」として職員会議で毎月取り上げ、必要な方には具体的にどういう対応をするかを話し合っています。

はじめたきっかけは、以前は定期的にお薬をとりに来ていたけれど、何カ月も来ていない「中断患者」が増え患者さんの対応をする中で経済的困難な方が多かったため薬局利用委員会で話題にしたところ、利用委員の河瀬さんがとても分かりやすく、具体的な対応を教えてくれたことにあります。相談を受け、患者さんのお宅に訪問したり、生活保護の申請をするため、患者さんと一緒に市役所に同行したりと、学習しながら実践しています。

個人の責任ではない

「病院にかかれないのはその患者自身のせいだと思う事があったが、学習や患者さんの相談にのる中で、個人の責任ではなく救ってくれる制度が不十分で、援助してくれる人がいなかっただけだと思えるように意識が変わった。」と戸塚さんは言います。

もともとたまち薬局では、後発品など安い薬を使って患者負担を少なくするよう頑張ってきましたが、それでは限界があります。「今ある制度を駆使して、自力で暮らしていくことができる方法を、患者さんとともに学習することが大切。」と薬剤師の中村さん。田町診療所が行っている「無料低額診療」については、困った患者さんがいた時に「また来てねと言える機会が増えるのはとても嬉しい。ただし薬局ではこの制度が認められていないため、対応した制度にして欲しいし、国に働きかけていく必要があると、力強く語っていました。

↑静岡・たまち薬局

職場紹介　～小規模多機能ホーム「すみれの郷」～

看護師　横内香苗

はじめまして、静岡健生会の三島市にあります小規模多機能ホームすみれの郷です。

私たちの事業所は昨年の5月に開設したばかりで、スタッフは看護師1名、介護福祉士４名、ヘルパー7名で現在２２名（定員２５名）の利用者様の在宅介護をお手伝いしています。

小規模多機能型居宅介護とは在宅で生活している高齢者に対し、通いを中心に、訪問、泊まりのサービスを提供させていただく事業所です。お越し頂いた方が楽しめるよう、またご家族が負担無く介護できるようにとスタッフ一同日々努力しています。

百聞は一見にしかず。是非職場体験にいらして下さい。

↑今日も利用者さんと楽しくレクリエーションを行っています！

企画レポート

東海北陸地協「ＤＡＮＳｉｎ静岡」開催！

レポート　栗田月江

８月２０、２１日の２日間、第５回東海北陸地協看護学生のつどい〈ＤＡＮＳ〉が開催されました。今年のテーマは「人権ってなに？～ハンセン病から考える未来～」。２月からほぼ毎月、実行委員会での学習と準備にとりくんできました。会場の国立駿河療養所には過去最多の９２名が集まり、静岡からは５名が参加しました。

ＡＫＢの曲に合わせたダンスで可愛く元気にオープニングのあと、元ハンセン病患者の小鹿美佐雄さん、療養所総看護師長の林尚子さんがそれぞれ講演に立ちました。７歳で療養所に強制連行されてからの体験や、心に傷を負った元患者さんに対する看護の思いのお話に真剣に聞き入りました。初日はこの他分科会やポスターセッション、班別ディスカッション、ゲームを交えた交流会など、学びと交流を深めました。ポスターセッションでは、静岡の看護学生１年で副実行委員長も勤めた恒吉さんが「静岡民医連と駿河療養所とのかかわり」をテーマに、学習のまとめを発表しました。

２日目も晴天！療養所内の重要施設を見学するフィールドワーク（汗）、入所者の方々を囲んでの懇談会など、体験や生の声を通じてハンセン病や療養所のことを学びました。「初めて参加し感動しっぱなしの２日間だった」「人権について初めてこんなに深く考えることができた」「正しい知識やその人を正確に知るということは看護にとってすごく大切」などの感想と熱気に包まれて、今年のＤＡＮＳも幕を閉じました。

↑ポスターセッション。分かりやすくまとめられていました！

↑貴重な体験談を話して下さった小鹿さん

「第３１回　医学生のつどいｉｎ仙台」

レポート　大城智昭

「全国医学生のつどい」が８月１６日から１８日、仙台で開催されました。この「つどい」は、日本の医療を取り巻く現状を学び、語り合い、自分の考える医師像を深めることができる場で、毎年８月に行なわれています。今年は浜松医大の３人を含め全国から１８０人の医学生と、医師やコメディカル・介護職員、患者さんなど総勢４００人が集いました。

今年のテーマは「介護・福祉」です。訪問看護師の宮崎和加子氏の講演「人が生活し生きることを支えること」では、事例を基に「医療はオプションであり生活を主体に考えることが大切」と話していました。また、シンポジウムでは患者さんから「データだけでなく患者の顔を見て、触診や温かい声かけをして欲しい」と、医学生へメッセージがありました。

↑3日目まとめ企画の様子

その他、奨学生活動交流企画や研修医による初期臨床研修のミニ講演、夕食後の大交流会など、盛りだくさんの内容でした。

〈学生の感想〉

◇チーム医療の大切さが分かった。他の医療系学生がどんな学習をしているのか知りたい。

◇介護・福祉は生活を楽にするだけでなく、人生を豊かにすると感じた。介護のイメージが変わった。

◇研修医の先生からいろんな話が聞けて良かった。

おすすめ情報☆

三島共立病院
理学療法士（1年目）
福井朋香

私の学生時代の趣味は“旅行”です。旅行といっても、友人とわいわい楽しむのではなく、自分ひとりで航空券のみ購入し、気の向くままに移動するという、いわゆる“バックパッカー”でした。

私が、初めて旅に出たのは１９歳の夏です。１０代最後の夏、何か思い出に残ることがしたい、そう思ったとき、思い浮かんだのはカンボジアにある『アンコールワット』でした。その後も、アジアを中心にアメリカ、メキシコなど様々な国へ行きました。旅に出た事により、私の世界は広がっていきました。どう広がったか、それは、旅に出て初めてわかるものだと思います。皆さんも、学生時代の思い出として、バックパッカーを経験してみたらいかがでしょうか？

↑イバン族の民族衣装と踊りで歓迎してくれました

バックパッカー

↑現地イバン族と日本人が共同で建設した障害者福祉施設をバックに

＊バックパッカー：低予算で国外を個人旅行する旅行者のことを指して使われてきた言葉である。ﾊﾞｯｸﾊﾟｯｸ（ﾘｭｯｸｻｯｸ）を背負って移動する者が多いことからこの名がある。
＊イバン族：マレーシア・ボルネオ島の原住民族。

医療情報 in 静岡

✧「静岡県庁内　医療支援センター発足」

静岡県は10月18日、県内の病院での臨床研修などの魅力を高め、医師確保対策を一元的に推進する拠点「ふじのくに地域医療支援センター」を県庁の医療健康局内に設置した。深刻化する県内の医師不足に対応し、医学部を卒業した“医師の卵”の研修医らに、魅力的な臨床研修プログラムなどを提供し、県内に定着してもらう狙いがある。

✧「社会保障費大幅増など訴え国民集会」

「増やせ」と書かれた紙を頭上に掲げてコールする参加者ら（10月21日、都内）

日本医療労働組合連合会など14団体が実行委員会を構成した「社会保障費を大幅に増やし、医療・介護の拡充を求める10・21国民集会」が日比谷野外音楽堂（東京）で開かれた。全国各地から医療・介護従事者らが5000人以上集まり、医師、看護師、介護職員の大幅増員などを求めた。広島市立広島市民病院で働く看護師は、夜勤人員が不足している窮状を説明し、「心と生活にゆとりを持ち、患者に寄り添うよい看護がしたい。そのためにも医師、看護師の大幅増員を」と言った現場からの訴えも行われた。集会後には都内中心部でパレードを行い、「社会保障費を増やせ」「夜勤を減らせ」「診療報酬を改善せよ」などとシュプレヒコールを上げた。

✧「熱中症の死亡者数は前年の10倍超―総務省消防庁」

今年7－9月に熱中症で医療機関に搬送されたのは5万3843人で、このうち搬送後に死亡が確認されたのは167人だったことが10月5日、総務省消防庁のまとめ（速報値）で分かった。昨年の同時期の16人の10.4倍に上る。搬送者数、死亡者数とも、ここ3年間で最多。

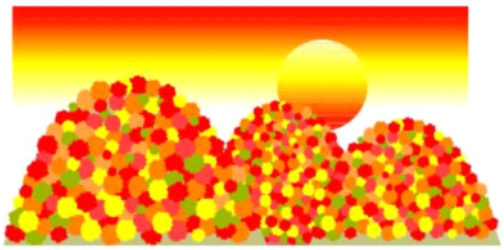
＊中日新聞・ＣＢニュース参照

イベントスケジュール

11/23（火・祝）静岡民医連
「第２０回　学術運動交流集会」

静岡民医連職員の医療活動の発表報告、交流の会です。どのような事が日常的に行われているか知る機会になりますので、一緒に参加してみませんか？参加を希望される方は、事前に右記連絡先までお問い合わせ願います。

＊内　容：記念講演、指定演題発表、分散会
＊場　所：静岡労政会館（静岡市）
＊時　間：9：50～16：20
＊対　象：医療系学生・浪人生
＊記念講演・講師：黒澤　一也　氏
（社会医療法人　恵仁会　くろさわ病院　理事長）
病院と施設の連携、地域の声に応えた施設作りについての講演を行なっていただきます。



イベントの申込・お問い合わせ

↳ 医学生
静岡民医連浜松事務所　　担当：大城・小黒
Tel：053-435-5932　e-mail：igakutai@shizumin.com

↳ 看護学生・薬学生・リハビリ学生　　担当：栗田
三島共立病院
Tel：055-973-0882　e-mil：kangakusei@shizumin.com